

(報告者) 上原 寛子			
(学年) 1年	(日にち) 10月中旬		
(教科・単元名) 国語「詩の楽しさをみんなで味わおう」 2時間扱い			
<p>(実践)</p> <p>さわやか集会の発表会を目標に、いくつかの詩を味わってみることにした。初めて短い言葉で表現された作品に出会うため、作品は、内容が楽しく、分かりやすいものを5つ選んで聞かせた。その中でも、谷川俊太郎の「かっぱ」が子どもに大変好評だったため、それを取り上げることにした。</p> <p>2連からなる短い詩だが、子どもたちと 様々なことを想像した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1連目は、かっぱがラッパを買ってきた。そして、間違いながらも一生懸命練習している場面。このかっぱは、子どもであろう。 ・2連目は、ラッパの練習をしてお腹がすいたので、菜っ葉を買ってきて食べた。 <p>この詩は、かっぱ・らっぱ・なっぱという3つの言葉が、リズムよく、くり返し出てくる。それを生かした音読(群読)にすることにした。</p> <p>2年生の群読を参考に、そのまま読むのではなく、繰り返したり、動作を入れたり、一人で読んだり、みんなで読んだりすることができるのを見せてもらうことができたので、群読のイメージは持てたようである。</p>			
<p><隊形></p> <p> ソロ2人 楽器役</p>	<p>* ソロとそれぞれのグループの掛け合いになるように構成した。</p> <p>合図やテンポを一定にしてリズム感を持たせるために、楽器(スリットドラム)を入れながら音読することにした。</p> <p>* 今回、反復・追いかけ・交誦・漸増法を用いた。</p>		
<table border="1"> <tr> <td>Aグループ (14人)</td> <td>Bグループ (14人)</td> </tr> </table>	Aグループ (14人)	Bグループ (14人)	
Aグループ (14人)	Bグループ (14人)		
<p>(反省)</p> <p>群読の手法は、たくさんあるため、子どもたちの読みに合っていた構成にすることができたかどうか甚だ疑問である。</p> <p>この詩は、ちょっとした早口言葉のような感じで読むことができる。子どもたちも大変気に入っていることもあり、練習には意欲的に取り組んだ。また、だんだんと声がそろってくるに従って、みんなで合わせる楽しさを味わったり、情景を思い浮かべながら読んだりすることができたようである。</p>			